

〈ワンポイント・レクチャー〉 高血圧の成因としての神経体液性因子の役割

高血圧の成因としては古くからPage博士のモザイク説に示されますようにひとつの因子のみでは説明できないのは周知の事実であります。しかしながら従来より研究されていますように血圧調節機序としては交感神経系などの神経性因子およびレニン-アンジオテンシン系などの体液性因子が最も重要であります。とくに交感神経系の役割については古くから研究されていますが高血圧の成因としてのその役割に関しては未だ明確な機序については明らかではありません。交感神経活動の亢進がレニン-アンジオテンシン系の活性化を生じることが明らかであります。また、両者を抑制する薬剤がその治療に有効であり最近の大規模臨床試験の成績で示されますように心血管疾患の罹患率、それによる死亡率を低下させることがわかってまいりました。心疾患の最終病態のひとつである心不全におきましても交感神経活動亢進、レニン-アンジオテンシン系の活性化が生じておりこれらの抑制が治療上有効であります。高血圧治療の目的は臓器障害を防ぐことにありますので降圧治療はもちろん最重要ですが上記の神経体液性因子活性化の抑制を考慮しなければなりません。新しいカルシウム拮抗薬の開発、アンジオテンシン変換酵素阻害薬、アンジオテンシン受容体拮抗薬の開発などはこのために行われてきたものであります。高血圧における交感神経系の役割についてはストレス社会の現在、その中枢性機序に関する解明が行われつつあります。来月福岡で開催される日本高血圧学会ではこれらの問題も含め幅広い話題が提供されます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(九州大学循環器内科助手 廣岡 良隆)

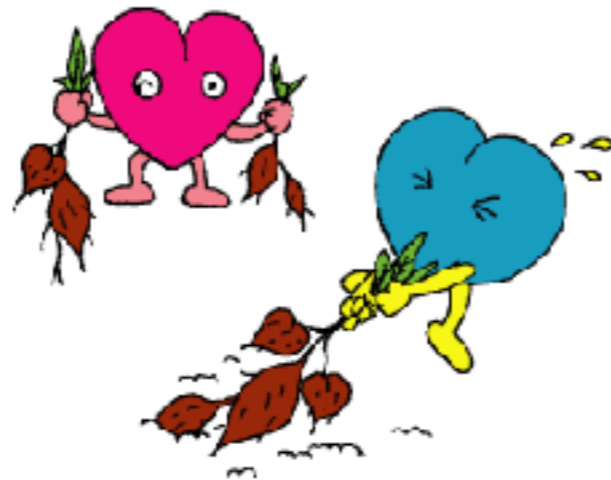
第23回日本高血圧学会総会のご案内

第23回日本高血圧学会総会会長  
九州大学医学部循環器内科教授 竹下 彰

第23回日本高血圧学会総会を下記の日程で地元福岡で開催いたします。今回はより多くの教育的プログラムを設けるとともに、採択演題数を従来より大幅に増やしました。また、つい最近発表されました本邦における高血圧治療ガイドラインの紹介も行われます。学会会員のみなならず一般医師、パラメディカルの方々も含め多数の参加をお待ちしております。

- 総会会期: 平成12年10月19日(木)~21日(土)
- 会場: アクロス福岡、福岡市中央区天神1-1-1
- 参加費: 1万円。但し、市民公開講座は無料。
- 総会内容:
  - 招待講演: 1.高血圧の遺伝子、2.酸化ストレスと動脈硬化
  - プレナリーセッション: 1.高血圧成因研究の新しい展開  
2.高血圧とレニン-アンジオテンシン系-最近の進歩-
  - 教育講演: 1.高血圧とゲノム、2.高血圧と代謝異常(糖尿病、肥満)
  - 教育セッション: 高血圧治療ガイドライン
  - 一般演題: オ-ラルセッション、ポスターセッション
  - ランチョンセミナー、サテライトシンポジウム
  - 市民公開講座(無料)

- 問い合わせ先(総会事務局):  
九州大学医学部循環器内科 廣岡良隆  
電話:(092)642-5360 FAX:(092)642-5374  
<http://www.bcasj.or.jp/hr/jhs23>



Dr. Mayu Inoue

〈循環器内科学・生涯講座からのお知らせ〉

第19期の残りの予定は以下の通りです。

- |      |                |  |
|------|----------------|--|
| 第六回  | 平成12年9月28日(木)  | 循環器疾患の治療薬選択の実際(循環器内科の日常臨床に最低限不可欠な薬剤とは)<br>循環器内科 助手 久保田 徹 (上野 光 講師より変更になりました) |
| 第七回  | 平成12年10月26日(木) | 心臓弁膜症の手術療法の新しい知見(弁形成術の現況と将来の展望)<br>心臓外科 講師 森田 茂樹                             |
| 第八回  | 平成12年11月16日(木) | 心房細動患者の治療をいかに行うか(抗不整脈薬の選択と抗凝固療法の適応決定)<br>医療技術短期大学 教授 榑木 晶子                   |
| 第九回  | 平成12年12月21日(木) | 心筋梗塞の既往を有する患者の外来での長期管理法(二次予防と生活指導の実際)<br>循環器内科 助教授 下川 宏明                     |
| 第十回  | 平成13年1月25日(木)  | 高脂血症の治療はどのような症例にどこまで行うか<br>循環器内科 講師 江頭 健輔                                    |
| 第十一回 | 平成13年2月22日(木)  | 高血圧症治療の実際(新ガイドラインの適用と高血圧性緊急症の治療)<br>循環器内科 助手 廣岡 良隆                           |
| 第十二回 | 平成13年3月15日(木)  | 低侵襲的な心臓カテーテル検査法と心肺運動負荷試験(CPX)の紹介<br>循環器内科 講師 毛利 正博                           |
- 場所: 九州大学医学部附属病院4階 臨床大講堂  
時間: 19:00~20:30(90分間)

現在残り7回の追加受講申込みを受け付けています。詳しいお問い合わせは事務局(担当:本松)までお願いします。

心エコー見学について

外来で実際の心エコー検査を見学していただけます。9月~3月の火曜日または木曜日、午前10:00~12:00(費用:2千円)  
今期の申込みは締め切りましたが、まだ若干の空きがあります。ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

この度、生涯講座担当が大原郁一より筒井裕之に変わりました。一人でも多くの先生方に受講していただけるよう、より一層工夫していきたいと考えています。本講座へのご意見・ご要望がございましたら、なんなりとお知らせください。

〈外来からのお知らせ〉

9月より外来医長を担当させていただくことになりました。  
日頃より当科の外来に患者さんをご紹介くださり誠にありがとうございます。  
ご存知のように九州大学医学部附属病院は特定機能病院であり、期待される役割は一般病院、診療所とは異なっています。しかし、このことは必ずしも受診の敷居を高くすることを意味するものではありません。どうぞ遠慮なく受診させてください。また、新患のみならず長く診療を続けられている患者さんで疑問点がありはっきりさせて欲しい点などがございましたら入院精査の可能性も含めご相談いただければ幸いです。基本的には外来診療には当科の教官があたっておりますので責任をもって対処いたします。また、非常にご丁寧な添書をいただく場合もございますがご多忙の先生方のことを考えますと恐縮いたしております。添書は簡単で結構でございます。当科の性質上、院内他科からのコンサルトが多いのですが理想を申し上げます。当科の性質上、院内他科からのコンサルトが多いのですが理想を申し上げます。再び問題が生じれば当科にご紹介いただけたらとありがたいと考えます。すなわち、病診連携であります。また、救急、急変などの場合は外来医、もしくは当直医が24時間体制で待機いたしておりますのでご紹介くださるようお願い申し上げます。  
外来医長 廣岡良隆



Dr. Mayu Inoue

新患受付: 月曜日から木曜日の毎日、午前8:30から午前11:00まで。  
急患受付: 24時間対応いたします。病棟医長または当直医まで電話にてご相談ください。

予約不要。不明の点は外来までお問い合わせ下さい。  
電話: 092-642-5371 (外来直通)

〈おわりに〉  
Beat 9号をお届けします。本誌が少しでも先生方の診療のお役にたてば幸いです。より良い紙面にしていいため、ご意見、ご要望、ご質問をお待ちしています。  
(広報誌編集担当 久保田 徹)  
[beat@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp](mailto:beat@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp)